



2020年12月1日  
東日本旅客鉄道株式会社

## サステナビリティボンドの発行について

- JR東日本は、昨年度に続き2回目となるサステナビリティボンドを発行します。サステナビリティボンドとは、環境・社会的問題双方の解決に資するプロジェクトを資金使途とする債券です。
- 当社は、グループ経営ビジョン「変革2027」においてESG経営の実践を掲げ、事業活動を通じて社会的な課題を解決することでSDGsの達成に取り組んでいます。また、今年5月に策定した環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ2050」を9月にはグループ全体の目標とし、グループ一体となって2050年度のCO<sub>2</sub>排出量「実質ゼロ」に挑戦しています。
- サステナビリティボンド発行を通じ、お客さま、地域・社会、株主・投資家、社員をはじめとするステークホルダーに対し、改めて「変革2027」で推進するESG経営への取組みを発信するとともに、「信頼」を高め、当社グループの持続的な成長につなげていきます。

### 1. サステナビリティボンドの発行概要について

1 年限	10年
2 発行総額	未定
3 発行時期	2021年1月（予定）
4 主幹事証券会社	野村証券株式会社、 SMBC日興証券株式会社

※その他詳細は決定後にお知らせします。

### 2. サステナビリティボンド・フレームワークの策定および外部評価（セカンドオピニオン）の取得について

#### サステナビリティボンド・フレームワーク

サステナビリティボンドの発行にあたって、国際資本市場協会（ICMA）のサステナビリティボンドガイドラインに定められている4つの要素（1. 調達資金の使途、2. プロジェクトの評価と選定のプロセス、3. 調達資金の管理、4. レポーティング）に関する方針を記載した「サステナビリティボンド・フレームワーク」を策定しました。

<https://www.jreast.co.jp/investor/sustainability-bond/pdf/framework-02.pdf>

#### 株式会社格付投資情報センターによる外部評価（セカンドオピニオン）

本フレームワークについて、株式会社格付投資情報センターより、サステナビリティボンドガイドラインなどの原則との適合性に対する外部評価（セカンドオピニオン）を取得しました。

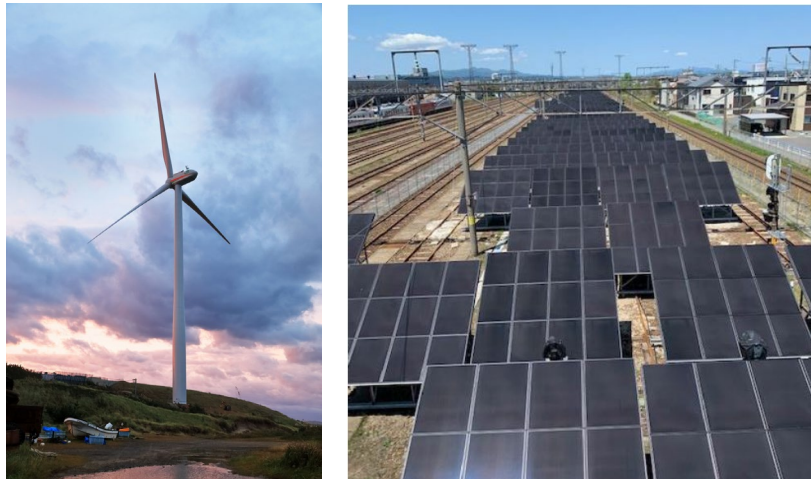
[https://www.jreast.co.jp/investor/sustainability-bond/pdf/second\\_opinion-02.pdf](https://www.jreast.co.jp/investor/sustainability-bond/pdf/second_opinion-02.pdf)

### 3. 資金使途について

本サステナビリティボンドについては、再生可能エネルギー（太陽光発電・風力発電）およびE235系車両（横須賀・総武快速線）を対象としています。

#### ■ 再生可能エネルギー（太陽光発電所・風力発電所）

再生可能エネルギーの開発を推進し、2030年度までに東北エリアにおけるCO<sub>2</sub>フリーの輸送サービスの実現、また、グループ会社であるJR東日本エネルギー開発㈱とともに太陽光、風力発電プラントの調査・開発を地域と協力して今後さらに推進し、2050年度までにJR東日本の鉄道事業で使用するエネルギーのうち約30~40%を賄える合計出力100万kW以上の開発を目指しています。



今回の資金使途は、太陽光発電（京葉車両センター太陽電池発電所、内原第一・第二太陽電池発電所、青森石江太陽電池発電所）、風力発電（JR秋田下浜風力発電所）を予定しております。

主な特徴として、京葉車両センター太陽電池発電所は太陽光パネルを車両センター構内に設置し、自家消費する取り組みを行っているほか、当社の配電線を介して鉄道運行に活用しています。

また、JR秋田下浜風力発電所は、発電した電気を固定価格買取制度（FIT）で買取している電力会社が、同発電所のトラッキング情報（環境価値の由来となった発電所を明らかにする情報）が付与された「非化石証書」を調達し、FIT電気と組み合わせたものを当社が購入しています。

自家消費していない電気はFITを活用し、電力会社に供給することでCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しております。

#### ■ E235系車両（横須賀・総武快速線）



E235系は、首都圏の通勤・通学を主とする輸送におけるさらなるサービス向上、安定性向上を目的に、多くの新規技術を導入した次期通勤型車両です。

主な特徴として、普通車の各車両にフリースペースを設置するとともに、普通車に設置するトイレを、すべて車いす対応大型洋式トイレにすることで、バリアフリー設備を充実させています。また、回生ブレーキによるエネルギーの有効活用により消費電力の低減を図っていることに加え、SiC素子を採用したVWFインバータを搭載し、従来品からの回生ブレーキ電力の向上やインバータ装置の効率向上を実現しています。